

News Release

2019年11月27日
日立キャピタル株式会社

日立キャピタルが3年連続で「IT賞」を受賞



日立キャピタル株式会社(執行役社長兼CEO:川部 誠治/以下、日立キャピタル)は、このたび、公益社団法人企業情報化協会(以下、IT協会)が主催する「2019年度(第37回) IT賞」において、「事務のファクトリー化(ITツール活用による業務時間削減含む)」への取り組みが認められ、マネジメント領域のカテゴリーで最も評価の高い「IT優秀賞」を受賞しました。

IT賞は、1983年にIT協会が「OA賞」としてスタートさせた、IT化の促進・活性化に寄与した事例を表彰する制度です。「ITを活用した経営革新」に、顕著な努力を払い、優れた成果が認められた企業・団体に授与されており、今回で37回目を迎えます。日立キャピタルは、2017年度から2年連続で選出されたIT奨励賞に続き、本年度は、IT優秀賞の受賞となりました。

日立キャピタルは、2009年に営業センターを設立し全国各地のバックオフィス業務を集約、2016年からは、競争力強化に資する質の高い経営基盤の構築をめざして、ITを活用した業務品質や効率の向上、コスト削減を図ってまいりました。現在では、フロント業務をサポートするバックオフィスとコーポレート部門において、「事務のファクトリー化」を目的として、業務の可視化、標準化、測定と評価、および再改善を行うとともに、RPAなどのITツール導入による自動化など、より先進的なITの活用によって、年間10万時間を超える工数削減の効果をあげています。今回、これらの取り組みが「論理的な業務量測定のマネジメントの仕組みを確立、その努力と取り組みのプロセスが模範になり得る」と評価され、IT優秀賞の受賞につながりました。

日立キャピタルは、「2019～2021年度 中期経営計画」の主要経営戦略において、「付加価値の向上」、ならびに「非財務資本の強化」などに取り組んでいます。デジタルトランスフォーメーションによるプロセス業務の効率化と革新的な業務改革、フロント・ミドル・バックオフィスにおける積極的なIT利活用を行い、「社会価値創造企業」としての持続的成長を支える経営基盤の強化を図っていきます。

■ IT協会ウェブサイト「2019年度(第37回)IT賞 受賞企業決定」

<https://www.jiit.or.jp/im/award.html>

■ 報道機関お問い合わせ先

日立キャピタル株式会社

経営企画部 ブランドコミュニケーショングループ [担当:関、竹内]

〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目3番1号

TEL 03-3503-2118 (直通)